

Japan River Restoration Network News Letter

発行：日本河川・流域再生
ネットワーク事務局

〒102-0082
東京都千代田区一番町8番地
一番町FSビル3階
財団法人 リバーフロント整備センター内
Tel: 03-6032-7121
Fax: 03-6032-7456
E-mail: info@a-rr.net
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

巻頭書記

JRRN が設立されてから間もなく2年を迎えようとしています。最近、河川再生に関する事例紹介やイベントPRの依頼など、国内外の河川環境再生に関る方々から JRRN 事務局への問合せが徐々に増えてまいりました。

今月下旬には、中国において日中韓3カ国の有識者による意見交換会(第1回 ARRN 情報・技術委員会)が開催され、河川環境分野のアジアにおける情報

交換のあり方や、共有すべき技術などについて協議が予定されています。

JRRN では、こうした活動の成果を国内外に発信しながら、ネットワークの更なる拡大を図り、日本国内とアジアの水辺環境の再生に寄与できればと考えています。

引き続き、JRRN 会員皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

JRRN 活動報告

国内外に誇れる身近な河川再生事例を募集しています

現在、JRRN では日本国内の河川再生の優れた事例収集に取り組んでおり、収集した情報を JRRN ホームページに掲載するとともに、その内容の一部については、英語ホームページを通じて海外にも発信しています。

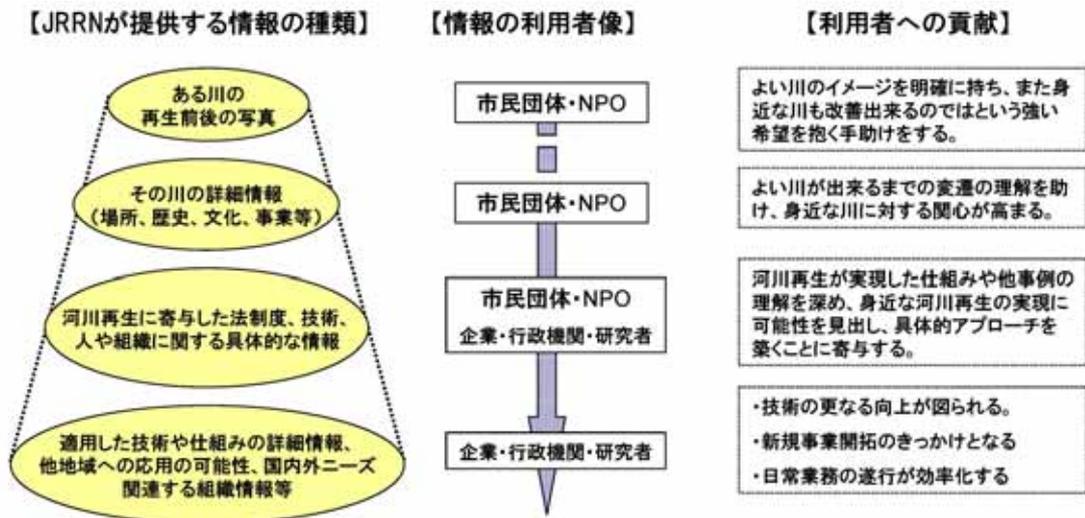
JRRN ホームページ「日本の水辺」

<http://www.a-rr.net/jp/waterside/domestic/index.html>

日本国内には、かつては美しい自然や景観を持ちながら、経済成長の過程でその環境が破壊され、その後の様々な取組みにより水辺環境が改善されていた河川が数多く存在しています。国の施策により

河川環境の改善が実現した川もあれば、自治体の地道な取組によりかつての美しい川に蘇った事例、さらには地元の人々の熱心な活動により良好な水辺を取り戻したケースなど、河川再生に寄与した主体も様々です。

JRRN では、こうした川の再生される前後の写真をはじめとした河川環境の変遷が分かる情報を集めながら、どのような仕組み、技術、また社会背景があって河川の再生が実現したのかを明らかにし、様々な事例について蓄積した教訓を国内外で共有できる仕組みづくりを目指しています。



JRRN が目指す河川再生事例の情報整備のイメージ

これら国内河川再生事例の集約に向けては、JRRN 会員皆様のご協力が欠かせません。そこで、身近な川、地元の愛する川の写真や水辺環境変化の変遷、また川への思いなどを、JRRN 事務局に御提供いただければ幸いです。日本国内のみならず、アジアの水辺再生に関するあらゆる情報が循環するようなネットワークの構築を目指し、更に河川再生事例の蓄積に努めてまいります。

情報提供の方法はこちら

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/useterms/>

(JRRN ホームページに最近掲載した事例集)

隅田川の再生事例 (東京都・墨田区他)

<http://www.a-rr.net/jp/waterside/domestic/04/97.html>



現在の隅田川 (提供:東京都建設局河川部)

境川水系和泉川の再生事例 (神奈川県・横浜市)

<http://www.a-rr.net/jp/waterside/domestic/04/881.html>



地蔵原の水辺

東山の水辺

紫川の再生事例 (福岡県・北九州市)

<http://www.a-rr.net/jp/waterside/domestic/04/907.html>



現在の紫川

太田川の再生事例 (広島県・広島市)

<http://www.a-rr.net/jp/waterside/domestic/04/906.html>



現在の太田川

大川・旧淀川の再生事例 (大阪府・大阪市)

<http://www.a-rr.net/jp/waterside/domestic/04/905.html>



現在の大川(旧淀川)

(JRRN 事務局 和田彰)

寄稿記事

第6回 日韓河川生態セミナー参加報告

寄稿者：田淵 昌之（財団法人リバーフロント整備センター）

日韓河川生態セミナーは2003年に徳島で始まったセミナーです。日本と韓国で毎年交互に開催され、今年は8月18日から19日にかけて韓国の晋州国立大学(JINJU NATIONAL UNIV.)にて第6回目が開催されました。今回は18日のセミナー、19日の現地見学会に参加する機会がありましたので報告を行います。

主な講演者：辻本哲郎（名古屋大学教授）、鎌田磨人（徳島大学教授）、竹門康弘（京都大学准教授）、Hyoseop WOO（韓国建設技術研究院）、Tae Soo CHUN（釜山大学教授）など

日時：平成20年8月18日～19日

会場：晋州国立大学、19日は現地視察

18日は晋州国立大学で辻本先生、CHON先生のキーノートスピーチが行われました。辻本先生からは河川生態の管理にむけた学際および国家間における協働に係わる10年間の発展について、CHON先生からはベントス群集の生態学の統合的な展望についての講演が行われました。



キーノートスピーチ

その後、日本と韓国から口頭発表、ポスターセッションが行われました。



口頭発表

セミナーの最後には総合討論が行われ今後の日韓河川生態セミナーをどうするのかについて議論がなされました。まずこれまでの総括を行いLEE（Landscape and Ecological Engineering）に特集



晋州市を貫流する南河



晋州国立大学

を組んでもらって発表する方向ですすめることになりました。



総合討論

19日は晋州市周辺の現地見学会が開催されました。まず市近郊の支川の合流点処理の改善事業を見学しました。



南河 支川導流堤



南河 改修中の本川堤防

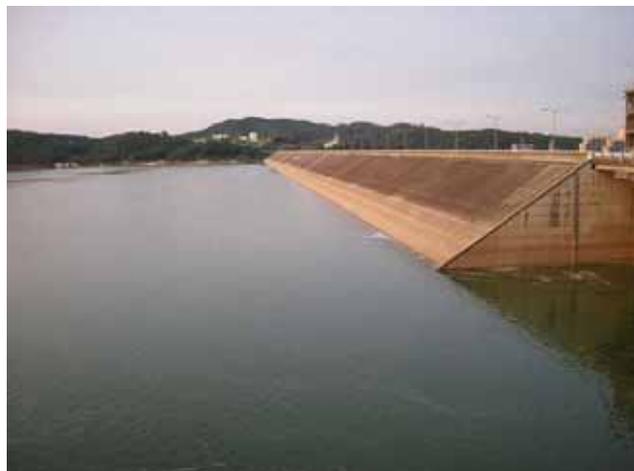
支川に導流堤を設置し、本川への合流を改善する工事の事例を見学しました。これは市の事業として実施し、導流堤の表面は巨石により構成されていました。また、本川の堤防は蛇籠による護岸が実施されていました。

次に人工ワンドの設置例を見学しました。下流部で本川と繋がっており、上流からは洪水時でも洪水流が流れ込まないような配慮を行っているそうです。



人工ワンド

晋州市の上流には南河ダムという多目的ダムと放水路が1969年に設置されております。このダムと放水路によって、100年に1度の洪水が発生した時に流入する流量10,400m³/sに対して8,400m³/sの洪水調節を行い、ダムから下流へ放流する流量を2,000m³/sとするダム計画が完成しておりました。その後1996年にダムの嵩上げ工事を行い、ダムの容量を増大させ、ダムから下流へ放流する流量を800m³/sまで低減させることが可能となりました。



南河ダム



南河ダム 放流口



南河 多自然の水辺



南河ダム 放水路ゲート



南河 親水護岸

南河ダムの治水機能向上により、晋州市を流下する南河の河川敷に余裕が出来、この余裕を使って河川の自然を取り戻そうとする事業が行われました。市民の要望をいろいろと聞きましたが主に利用面の要望しか取り入れることができなかったそうです。

自然再生という言葉は日本でも韓国でもよく使われています。しかし、具体像としてどんな自然環境を再生するのか、目標とする理想像どうやって定めるのか、については韓国においても苦労していることが実感できました。

今回は韓国の川を初めて見る機会を得ました。日本の川と似ているところも多くあり、郊外の風景は日本のそれと間違えそうになるほど地形的・文化的な共通項を見出すことができます。日本と韓国が協働でできることが数多くあると実感することができました。



南河 高水敷に設置された駐車場

会議・イベント等 (2008年9月)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

ARRN 主催「河川環境講演会」～ 海外における環境水工学の最新の研究紹介 ～

日時：平成20年9月16日(火) 13:30 - 17:20

会場：東京大学工学部1号館15号講堂

参加費：3,000円

講師：

1) IAHR 副会長 ピーター グッドウィン 教授

2) IAHR 副会長 ジョセフ リー 教授

詳細は以下をご覧ください。(チラシ)

<http://www.a-rr.net/jp/event/docs/03-0116.pdf>

(その他の河川再生に関する主なイベント)

中国の水問題解決に向けた取組みと日本の役割

日時：平成20年9月1日(月) 14:00～17:30

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/866.html>

第31回水環境シンポジウム「水辺のまちづくり
～住民参加の親水デザイン～」

日時：平成20年9月4日(木) 13:00～17:00

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/865.html>

第9回川での福祉と医療と教育の全国大会 in
世田谷

日時：平成20年9月5日(金)～7日(日)

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/882.html>

学術シンポジウム「霞ヶ浦導水事業は那珂川のア
ユと自然環境にどのような影響をおよぼすか？」

日時：平成20年9月6日(土)～7日(日)

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/871.html>

第8回川に学ぶ体験活動全国大会 in 九州・熊本

日時：平成20年9月13日(土)～15日(月)

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/877.html>

第124回河川文化を語る会「海と水産業の再生～
森と川とのかかわりも含めて」

日時：平成20年9月24日(水) 18:00～20:00

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/842.html>

第16回リバーフロント整備センター研究発表会

日時：平成20年9月26日(金) 13:00～17:40

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/916.html>

第1回 いい川・いい川づくりワークショップ

日時：平成20年9月26日(金)～28日(日)

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/917.html>

冊子・ビデオ等の紹介

川の環境目標を考える - 川健康診断(2008.7)

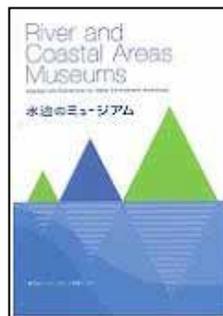
- ・監修： 中村太士・辻本哲郎・天野邦彦
- ・出版社： 技報堂出版
- ・発行年月： 2008年7月
- ・価格： 2,940円(税込)
- ・ISBN： 978-4-7655-3431-4



本書は、河川環境について、人の健康診断の類推表現を用いながら、その目標を具体的に提示し、今後の河川の保全・再生のあり方について判りやすく解説しています。え方が紹介されています。

水辺のミュージアム(2007.9発行)

- ・発行：(財)リバーフロント整備センター
- ・価格：無料



全国の「水辺」にかかわる資料館・博物館の中から、特色のあるものを紹介した冊子が発行されました。一見して捉えにくい水辺の魅力や展示方法をわかりやすく紹介しています。

本書をご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター技術普及部」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。
電話：03-3265-7121 Fax：03-3265-7456

事務局からのお知らせ

JRRN が設立されて間もなく 2 年となります。JRRN の活動にご関心のある方、また国内外の河川再生の情報に興味をお持ちの方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

JRRN の登録資格

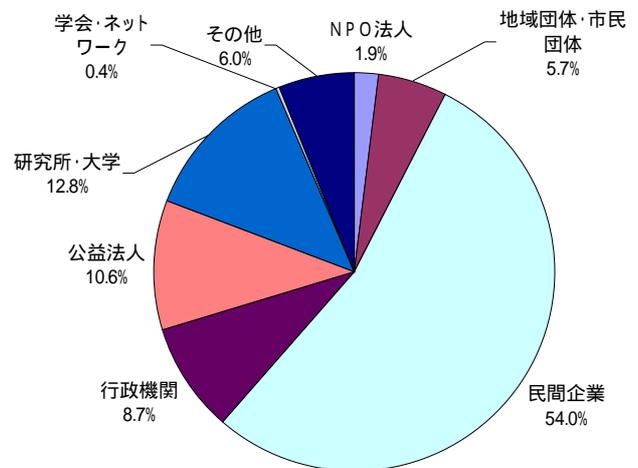
JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。

市民団体、NPO 法人、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2008 年 7 月 31 日時点の個人会員構成

【問い合わせ先】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)事務局

財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部内
東京都千代田区一番町 8 番地 一番町 FS ビル

Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456

E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

会員登録方法

以下のホームページより個人・団体会員登録が可能です。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>